



秋田市エイジフレンドリーシティ市民意識調査の実施について

1 調査目的

「秋田市エイジフレンドリー指標」における市民の意識の変化や市政に対する評価について分析することで、エイジフレンドリーシティの進捗状況を検証するとともに、令和3年度に策定する「第3次秋田市エイジフレンドリーシティ行動計画」の基礎資料とするため実施する。

2 調査基準日

令和2年8月1日を基準とする。

3 調査対象

- (1) 対象者 20歳以上の市民3,000人
- (2) 抽出方法 無作為抽出

4 調査方法

郵送（配布および回収）による。

5 調査日程（予定）

- 8月下旬 入札執行・業務委託契約
- 9月下旬 調査票発送
- 10月中旬 回答期限(郵送)
- 11月中旬 調査票の集計および分析結果受領
- 12月下旬 調査報告書受領

6 設問内容（合計50問）

- (1) 調査対象者の属性（6問）
- (2) 生活の質について（1問）
- (3) 公共交通機関、屋外環境について（6問）
- (4) 住環境について（5問）
- (5) 年齢を重ねることについて（2問）
- (6) 情報環境について（3問）
- (7) 医療・介護福祉について（3問）
- (8) 趣味、地域活動、社会活動について（6問）
- (9) 社会参加について（5問）
- (10) 就労について（5問）
- (11) 新型コロナウイルス感染症について（2問）
- (12) 暮らしについて、エイジフレンドリーシティについて（6問）

7 設問や分析に関する基本的な考え方

- (1) 平成27年度に行った調査の設問項目をベースにする。
- (2) 「エイジフレンドリー指標」における「基幹指標」および「意識指標」に関する市民の意識の変化について、より明確に分析することができる設問項目に改める。
- (3) 第3次行動計画における具体的な政策につなげるため、市民のニーズやエイジフレンドリーシティを推進していく上での課題等を総合的に分析することができるよう、複数の設問によるクロス集計や相関分析を行う。

8 集計・分析方法（予定）

- (1) 設問ごとに男女別・年齢別・居住地域別の表やグラフ等を作成
- (2) 前回の調査結果との比較
- (3) 15～20程度のクロス集計
- (4) 4つの基幹指標×8つの意識指標の相関関係
 (例1) 基幹指標1で「はい」と答えた人は、意識指標1や意識指標2の満足度が高い など

基幹指標	意識指標
1 自分らしく暮らすことができていると感じている高齢者の割合（問45）	1 近所を安心して外出できると感じている高齢者の割合（問12）
2 あらゆる世代にとって住みよいまちであると感じている人の割合（問46）	2 バスや電車などの交通機関は便利で利用しやすいと思う高齢者の割合（問11）
3 地域とのつながりがあると感じている高齢者の割合（問47）	3 現在の住環境に満足している高齢者の割合（問15）
4 意欲的に社会と関わり、さまざまな活動に参加している高齢者の割合（問29,問33,問38）	4 余暇の過ごし方に満足している高齢者の割合（問27）
	5 年齢を重ねることを肯定的に捉える人の割合（問19）
	6 ボランティア活動や働くことにやりがいを感じている高齢者の割合（問31,問39）
	7 地域において、福祉相談やサービスに関する情報が入手しやすいと回答した高齢者の割合（問22）
	8 医療、福祉サービスの充実に満足している高齢者の割合（問24）